



PRESS RELEASE

報道関係各位

2023 年 3 月 9 日

カリフォルニアワイン Alive テイスティング 2023 来日生産者多数、コロナ禍以前の賑わい戻る

カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、略称 CWI) は、本年 2 月 28 日(火)に東京會館(東京都千代田区)で、3 月 2 日(木)にヒルトン大阪 (大阪市北区)でワイン業界関係者を対象に「カリフォルニアワイン Alive テイスティング 2023」を開催しました。CWI は、2020 年に新型コロナウイルスによる東京試飲会の中止移行以降、感染症対策として制限時間や定員を設け規模を縮小して実施して来ましたが、今回は従来の形に戻し、より自由に試飲と商談ができる環境を提供しました。入国制限の緩和を受けてカリフォルニアから多くの生産者が出展ブースに立ち、東京では 710 名、大阪では 335 名と、コロナ禍以前を超える来場者で賑わい、活発なコミュニケーションが繰り広げられました。



この試飲会は、4 月から 5 月の 2 か月間にわたり全国で開催するプロモーション^{※1}に向け、毎年この時期に東京と大阪で開催するもので、カリフォルニアワインの試飲会としては最大の規模を誇ります。本年は、東京 48 社、大阪 35 社が出展。特設コーナーも含め、参考小売価格(税込)1,000 円台前半から 40,000 円を超えるものまで、東京 788 品目、大阪 617 品目の出品があり、カリフォルニアワインの多様で幅広い魅力が訴求されました。

今年のテーマ産地であるウエスト・ソノマ・コースト^{※2}からは、ウエスト・ソノマ・コースト・ヴィントナーズ^{※3}に所属する 9 つのワイナリーから生産者が来日。昨年 5 月に承認されたばかりの注目度の高い AVA^{※4}であることから、特別セミナーは開催告知をして間もなく定員に達する人気ぶりでした。来日生産者らによる産地特性についての講義の他、東京では井黒卓氏、大阪では岩田渉氏のカリフォルニアワインに精通したソムリエ両名がテイスティングコメントを披露しました。



※1 カリフォルニアワイン・スプリングプロモーション

日本国内の料飲店及び小売店で展開するカリフォルニアワインの販促プロモーション。

※2 ウエスト・ソノマ・コースト

ソノマ・カウンティの最西部に位置する、2022 年 5 月に承認されたアメリカで最も新しい AVA(アメリカ政府公認葡萄栽培地域)の 1 つ。

※1 と※2 の詳細については本年 2 月 27 日のプレスリリースをご参照

<https://calwines.jp/b2b/wp/wp-content/uploads/2023/03/230301.pdf>

※3 ウエスト・ソノマ・コースト・ヴィントナーズ

ワイナリーとブドウ栽培家による生産者団体。ウエスト・ソノマ・コーストの歴史、景観、精神を守りつつ、この地域で造られるバランスよく、誠実さ、個性、そしてニュアンスを備えたワインを広めることに専念。

※4 AVA(=American Viticultural Areas) アメリカ政府公認葡萄栽培地域



試飲会場内のウエスト・ソノマ・コーストのリージョナルブースは、生産者と言葉を交わしながら熱心に試飲する来場者で溢れました。東京会場では人垣ができる時間帯もあり、「これだけ豪華な顔ぶれの生産者らに一度に会える機会はない」という声が多く、記念撮影をする人の姿が目立ちました。大阪では「有名なワインの生産者と話せて勉強になった」「新たな発見があった」など、新鮮な印象を述べる声が聞かれました。

ウエスト・ソノマ・コースト・ヴィンティナースからの来日 9 ワイナリーとその代表者は、アーネスト・ヴィンヤーズのジョセフ・ライアン氏、ウェイフェアラーのトッド・コーン氏、コブ・ワインズのロス・コブ氏、センシーズ・ワインズのクリストファー・ストリーター氏、フリーマン・ヴィンヤード & ワイナリーのアキコ・フリーマン氏、アルマ・フリアのキャロル・ケンプ氏、ハーシュ・ヴィンヤーズのジャスミン・ハーシュ氏、ペイ・ヴィンヤーズのアンディ・ペイ氏、リトライのテッド・レモン氏です。(写真左から)



「カリフォルニアワイン Alive テイスティング 2023」は、CWI のグローバルブランド「ゴールデン・ステート・オブ・マインド～輝くカリフォルニアの想い」が掲げる‘Alive(いのち溢れる)’なカリフォルニアのあり方を表現する場でもあります。東京会場では2つのテーマ別ブースを特設しました。「Wines on a Mission ～カリフォルニアワインの使命」は、気候変動など、特に先進的なサステナビリティへの取り組みを行っている活動をパネル表示し、それらのワイナリーのワインを試飲に供しました。「センサリー・ガーデン」は、カリフォルニアを代表するワイナリーの1つジャクソン・ファミリー・ワインズが、ソノマのケンダル・ジャクソンの施設で運営しているもの。代表的なワインの品種特有のアロマや味わいに感じられる植物を、品種ごとに集めて植栽。これを会場内で再現し、品種の特性が顕著なワインを試飲に供しました。

一方、3月6日(月)にゴールドバーク駐韓米国大使を迎えソウルで開催した同試飲会での来場者は613名に上り、韓国で最大の特定産地によるワイン業界対象の試飲会となりました。カリフォルニアワイン協会北アジア・豪州地域共同代表の扇谷まどかと手島孝大は、「昨年コロナ禍で叶わなかった来日者を迎え、さらに出展社ブースの枠を超えた展示によって、より‘Alive’なカリフォルニアワインのあり方を分かち合うことができたことは、たいへん有意義と感じています。」と日韓における一連の活動を振り返りました。



カリフォルニアワイン協会(本部・カリフォルニア州サンフランシスコ)は、1,000社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界18カ国に事務所を置き、世界27カ国でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年185以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142カ国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に1985年に設立されました。www.calwines.jp

以上

この件に関する読者からのお問合せ先 カリフォルニアワイン協会日本事務所 E-mail : info@calwines.jp 電話番号 : 03-6629-3658	この件に関する報道関係者様からのお問合せ先 KONDO SAORI OFFICE 近藤 さをり E-mail : saori@saorikon.com 電話番号 : 080-7011-5747
--	---